
レシピエント選択基準変更に対する献腎移植希望者の意識調査

小坂麻純、樋渡奈々子、梁田智子、荒川アツ子、
佐藤 滋*、下田直威*、加藤哲郎*、土方仁美**

秋田大学医学部附属病院 2 階西病棟、秋田大学医学部泌尿器科*、
秋田県臓器移植推進協会**

<はじめに>

平成14年1月のレシピエント選択基準の改訂により東北ブロック外から腎搬送がなくなるばかりでなく、県単位の提供、移植に重点がおかれるようになった。すなわち秋田県内から腎提供がない限り、秋田県の移植施設を希望している登録者がレシピエントに選択される可能性は極めて低くなると思われる。私達移植施設看護師は、昨年より患者会の開催、パンフレットの作成などを行い、献腎移植希望者と関わってきた。

今回の基準改訂については県コーディネーターから各透析施設担当者を通して登録者へ通知されたが、この改訂に対する献腎移植希望者の反応はまだ報告されていない。そこで私達は、献腎移植希望者に対する支援活動の参考にするため、アンケート調査を行ったので報告する。

<Ⅰ. 目的>

秋田県に在住する献腎移植希望者のレシピエント選択基準改訂に対する反応をアンケート方式にて調査する。

<Ⅱ. 方法>

期間 平成14年9月6日から9月24日

対象 県内在住献腎移植登録者109名。

回答率は91.7%

方法 レシピエント選択基準改訂内容の簡略な説明文書と無記名自記式調査票によるアンケート

<Ⅲ. 結果・考察>

選択基準改訂を今回の調査以前に知っていた方は51名、知らなかった方は49名だった。

改訂を以前から知っていた方51名中46名が改訂内容を理解できたと答え、以前は改訂を知らなかったが今回のアンケートで理解できた方は49名中44名いた。(図1)

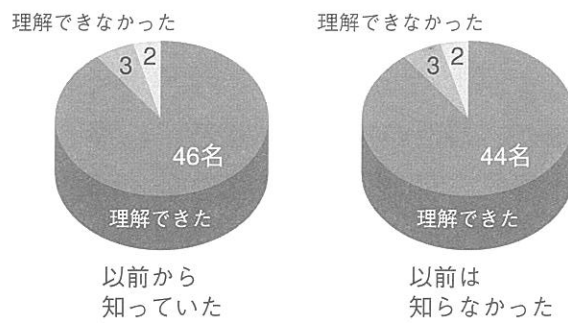


図1 改訂に対する理解度

この結果よりアンケートによって改訂に対する認知度が約50%から90%に上昇したことが分かり、情報提供にもつながったと考える。しかし、新基準においてHCV抗体陽性者から陽性レシピエントに限り腎提供が可能になったが、これに対しては感染への不安の声も聞かれ、理解が正しくされていないことがうかがえた。さらに詳しい情報提供が必要と考える。

選択基準改訂について、肯定的な方は53名、よく分からないを含め否定的な方は44名いた。肯定的な方の理由としては「県内の人が優先される」が1番多く、次に「県内で提供があれば2腎とも県内で移植される可能性がある」だった。(図2)

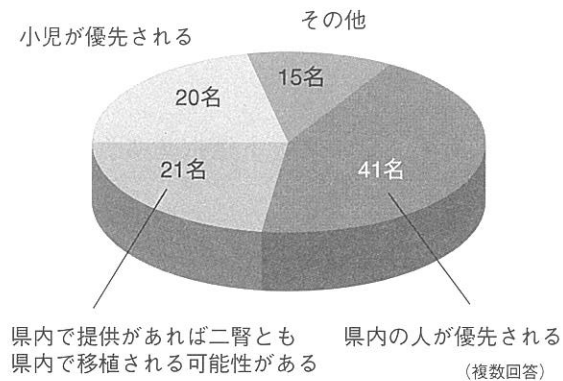


図2 肯定的意見

よく分からないを含め、改訂に否定的な方の理由としては「東北や県内での腎提供数が少ない」が1番多く、次に「東北圏外への腎輸出も圏外からの輸入もない」だった。(図3)

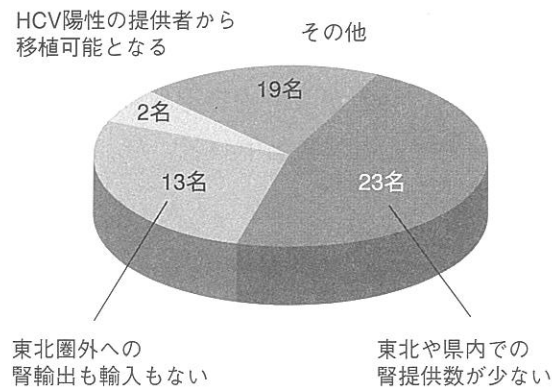


図3 否定的意見

その他の意見として「本県の腎提供が多いのか少ないのかわからない」「可能性が増えたのか、減ったのかわからない」という意見もあり、県内腎提供の現状なども内容に加える必要があると考える。

登録県の変更について、変更を少しでも考えている人は19名おり、全員他県施設登録者であった。(図4)

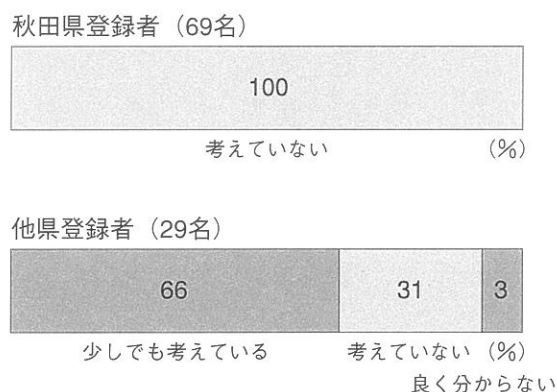


図4 登録県変更希望について

改訂内容に県内の人が優先されるのはよかったと期待を持っている方もいるが、登録施設が変わることに不安を持ちながら変更を考えている人もおり、このような気持ちを理解しながら支援していくことが大切であると考えます。

改訂に関する自由記述では「今回のような情報提供を定期的に継続、企画して欲しい」「情報がどこから入るのか確立してほしい」等の意見要望があった。

現在、当院移植医とコーディネーターが中心となり、2001年12月より秋田県臓器提供推進プログラムすなわちドナーアクションを開始しており、県内病院の院内コーディネーターの設置、各病院での移植医療の説明、勉強会等行っている。このように少しでも多くの腎提供を増やす為の活動がなされていることを登録者に伝えることも不安を軽減させることにつながるのではないかと考える。また私達自身も移植施設看護師として院内の移植医療、院内コーディネーターについて理解が得られるように勉強会に参加し、他のスタッフも参加されるよう働きかけていかなければならない。

今回のアンケート結果より、選択基準改訂の認知度が低い事や、改訂内容に対するさまざまな不安や疑問があることがわかった。このような希望者に対する支援活動は県コーディネーター一人では難しいと思われる。そのため、私達もコーディネーターに協力し、希望者と関わっていきたいと考える。

<IV. 結論>

- I. レシピエント選択基準改訂に対して、希望者は期待やさまざまな不安、疑問を持っていた。
- II. 今回のアンケートによりレシピエント選択基準改訂に対する認知度が約50%から約90%に上昇した。
- III. 移植施設看護師として県コーディネーターをサポートするとともに、それを通して献腎移植

希望者への支援活動を行う必要がある。

参 考 文 献

佐藤 滋：秋田県における臓器提供推進プログラムとその取り組み、今日の移植 Vol15 No5.
September 2002